

南アフリカのアボカド産業 インド、日本、中国へ初出荷の準備中

[FreshPlaza 2024年5月9日](#)

南アフリカ産アボカドはわずか8カ月の間に、合計25億人以上に手が届く可能性があるインド、中国、日本の市場への参入を果たした。これらの大きな主要市場が突然開かれたように見えるかも知れないが、南アフリカが日本市場へのアクセスを得るまでに約15年、インドでは何年も、中国でも数年かかった。つまり、例えば今年の6月中旬に行われる中国当局者による最後の現地査察までの数カ月の待ち時間はわずかに過ぎないということだ。その後まもなく、正式な出荷が開始される。

南アフリカ亜熱帯果実生産者協会 (Subtrop) のデレク・ドンキンCEOは、果実を送れるようになるまで現地で最後の詳細を詰めるのに忙しいと述べ、「昨年8月に議定書が調印され、中国への新たな市場参入が認められた。今のところ、6月中旬に予定されている中国による最終の査察を待っているところである。その後、アボカドの最初の出荷を予定している」と語った。(以下「」は同氏の発言)

中国へのアボカドの実際の輸出は南アフリカ産の出荷シーズンの終わり頃になるであろうが、ドンキン氏は、すべての新しい市場と同様に、中国市場は徐々に伸びていくと考えている。「どれだけの量を中国市場に送るかはまだ分からない。中国は成長している市場だ。現在はアボカドの主要市場ではないため、当初は南アフリカ産のアボカドが中国で大量に売れるとは予想していない。しかし、その潜在的可能性は計り知れず、南アフリカのアボカド産業は中国での将来の成長を取り込むだろう。」

ドンキン氏によると、業界は、これらすべての新しい市場に短い間に次々と参入できることを喜んでいる。「12月に日本市場への新規参入が認められ*、4月にはインドへの参入が認められた。これは、8カ月の間に3つの新しい市場を獲得したことを意味する。これらの市場に最初の荷を届けることを楽しみにしている。」

2024年シーズンは好調なスタート

南アフリカの2024年産アボカドの出荷量は、昨シーズンの1,860万箱(4kg/箱)から約7.5%増となる2千万箱と予想されている。南アフリカの港湾の効率性は依然として問題が多く、業界はこれを解決するため政府と協力している。新植された園地は生産量の増加に貢献している。

「現在までに700万箱を出荷した。輸送と港湾の状況は依然として困難であるが、物流チェーンに関わるすべての人が、果実が予定どおりに出荷されるように懸命に働いている。新植された園地が成園化してきており、毎年少なくとも800ヘクタールが加わっている。現在、約2万ヘクタールの園地から出荷している。今後5~7年は新植した園地が成園化してくるため、成長が続くはずである。」

ドンキン氏は、今シーズンの残りの期間、南アフリカのアボカド産業の見通しは有望なようだと言っている。「報告によると、エルニーニョの影響でペルーからの供給量が減少するため、ヨーロッパ市場は前シーズンよりも満杯感が緩和するだろう。最近のペルー産は小玉が多いため、現在、小玉の価格は上値が重い。より大きい入数12~18の果実については、価格は良好で安定している。」

ペルーはヨーロッパで南アフリカと数量競争を繰り広げているが、アボカド産業が拡大しているケニアとも競争が激しくなっている。

「ケニアは南アフリカよりも総輸出量が多く、我々と幾分か競合している。しかし、収穫物の大部分は、市場に近いという点で有利性がある中東に輸出されている。我々にとって、ヨーロッパ市場での量的な面での主要な競争相手はペルーである。」

執筆者: クレイトン・スワート

* 訳注: 南アフリカ産アボカドの日本への輸入は、令和5年11月末に条件付きで解禁されました。参考 [農林水産省告示](#)